

専修大学は、  
挑戦する意欲を持った  
すべての学生を応援します。

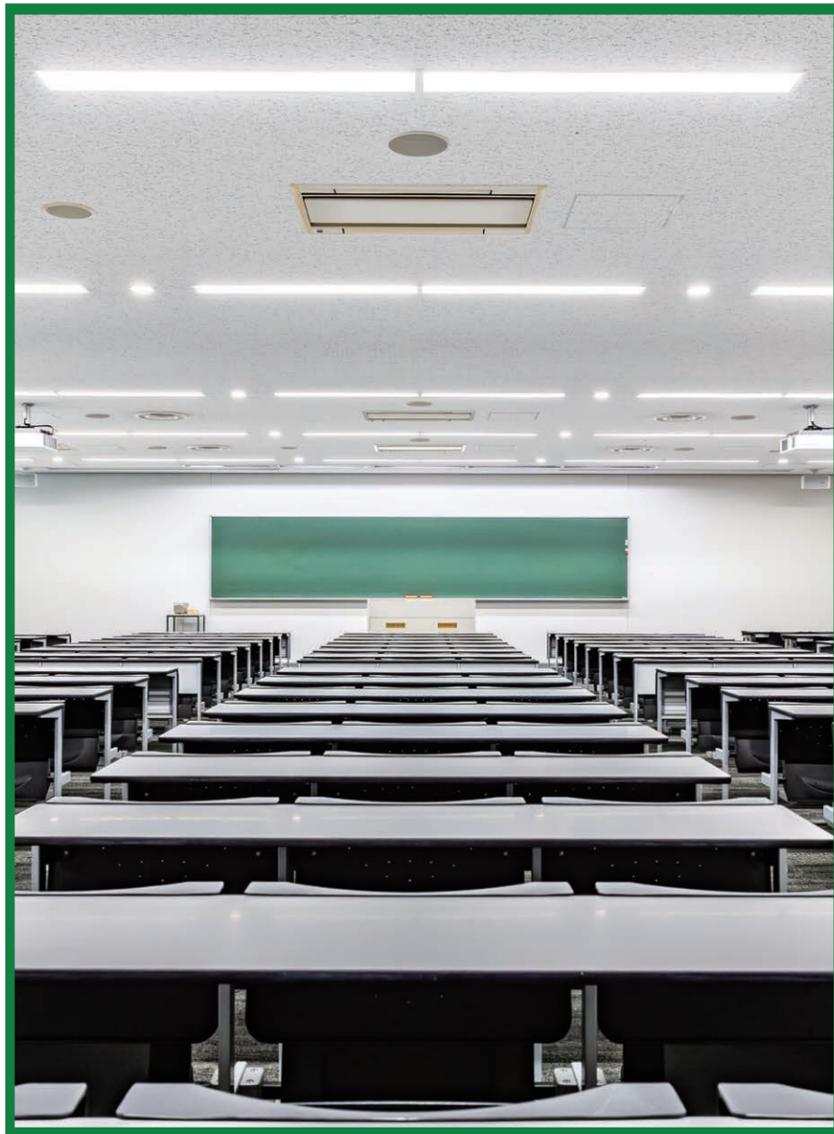
専修大学は、21世紀ビジョンとして

「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」を掲げています。

社会知性とは、「専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、

深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により

主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力」です。



COURSE GUIDE 2026

LAW

法律総合講座



自分で考える、  
自分を信じ続ける。



# FIND YOUR DREAM!

自分で考える、自分を信じ続ける。  
この挑戦は必ず  
将来の自信になるから。



主催/専修大学エクステンションセンター 提携/株式会社アガルート(1,2年目講座)

## INDEX

- 01 目次・学長メッセージ
- 02 講師からのメッセージ
- 03 法律のエキスパートを目指す
- 05 法律総合講座について
- 07 **1年目** 法律科目入門講座Ⅰ期
- 08 **2年目** 法律科目入門講座Ⅱ期
- 09 **3,4年目** 法曹実力講座Ⅰ期・Ⅱ期
- 10 受講生・合格者からのメッセージ

## Message from the President 学長メッセージ



専修大学長  
馬場 杉夫

### 意志あるところに道は拓かれる

本学は、明治維新後、アメリカのハーバード大学、エール大学、コロンビア大学、ラトガース大学に留学した4人の若き創立者たちによって、明治13年に創立されました。日本初の私立法律専門

学校であり、五大法律学校としての歴史を有しています。そして、創立以来今日まで、高等教育機関としての役割を果たしてきました。専門教育により近代日本の人的基盤を整備しようとした創立者たちの熱き思いは、今日では「社会知性の開発」という本学の21世紀ビジョンの中に継承されています。新入生の諸君にあっては、本学が私学教育の先駆けとして重要な役割を果たしてきた伝統校であることを認識し、自信と誇りをもって大学生活に精進してもらいたいと思います。大学は自己の可能性を追求する場です。本学のエクステンションセンターでは、平成18年度より「法律総合講座」を開講しております。これは、

それまで行われてきた「司法試験受験対策講座」を継承・発展させた、本学独自のものです。この講座では、正確な基礎知識を積み上げ、条文と基本原理に忠実な法律解釈力を養成することを目的としております。この力を養うことにより、将来法律の専門知識を活かした様々な進路や資格を選択することが可能になり、皆さんの夢の実現に大きく寄与することは間違いありません。本学の創立者たちの熱き思いに誇りをもち、何事にもチャレンジ精神をもって取り組み、自己変革を遂げてくださることを期待しています。必ずや、意志あるところに道は拓かれます。専修大学は学生を全力で応援します。

※本誌は2026年度入学生向けの講座実施体制を掲載しているため、2027年度以降の入学生に対しては、講座の内容を変更する可能性があります。  
※メッセージを掲載している受講生、合格者の学年は2025年度のものです。

## Messages from Lectures 講師からのメッセージ



法律の「勉強方法」を教えます

渥美 雅大先生

法律科目入門講座Ⅰ期・Ⅱ期 対面フォローシステム担当

2010年専修大学法学部法律学科卒業、2012年専修大学法科大学院修了(法学既修者) 受験時代に苦勞した経験を活かし、司法試験受験生を指導したいとの思いから、受験指導専門学校講師となる。司法試験のみならず、公務員試験や司法書士試験など、幅広い分野の法律系科目の指導にあたる、マルチプレーヤーである。丁寧かつ解りやすい指導には定評がある。

はじめまして。受験指導専門学校で講師をしています。渥美雅大と申します。エクステンションセンター主催の法律科目入門講座・対面フォローシステムを担当させていただいております。よろしくお願いたします。まず、自己紹介を簡単にさせていただきます。2010年に専修大学法学部法律学科を卒業、2012年に同法科大学院を修了、2015年に司法試験に合格しました。その後1年間の司法修習を経て、現在、受験指導専門学校で講師をしています。受験指導専門学校では、司法試験、法科大

学院入試、司法試験予備試験に向けた講座、個別指導はもちろん、国家公務員採用総合職試験の専門記述対策、弁理士試験など、法律科目が試験科目となっている資格試験を担当させていただいています。私自身、在学中はエクステンションセンター主催の講座を受講しておりましたので、在学生の皆さん、特に講座の受講生になる皆さんとの関係では、先輩ということにもなるかと思えます。ただ、「先輩だから何だ」というわけではなく、「法律を勉強する」、「勉強の仕方を考える」といったことを一緒に考えていこうなフォローができればと思っています。

早速ではありますが、フォロー内で本格的に勉強するに先立ち、「法律を勉強する」、「勉強の仕方を考える」ことについて、簡単にお話できればと思います。

まず、「法律の勉強は非常に難しい」です。私自身、いまだにそう感じています。では、なぜ「法律の勉強は非常に難しい」のか。それは、「言葉づかいが難しい」、「抽象的でイメージしにくい」といった理由が挙げられると思います。

例えば、民法94条2項では、「前項の規定による意思表示の無効は、善意の第三者に対抗することができない。」とされています。ここでの「善意」は、日常生活での「善意」の意味ではありません。また、民法562条1項では、「引渡された目的物が種類、品質又は数量に関して契約の内容及に適合しないものであるときは、買主は、売主に対し、目的物の修補、代替物の引渡し又は不足分の引渡しによる履行の追完を請求することができる。ただし、売主は、(中略)買主が請求した方法と異

なる方法による履行の追完をすることができる。」とされています。ざっと読んでみて、主語・述語が何だったのか、この条文を使って何ができるのか(法律の世界ではこれを「効果」と呼びます。)、そのためには何が必要か(同様にこれを「要件」と呼びます。)、読みとることができたでしょうか。「法律を勉強する」とは、このような「言葉づかいが難しい」ものを読んで、言葉の意味をおさえること、条文を読むことができるようになることといえます。また、「勉強の仕方を考える」とは、このような「言葉づかいが難しい」ものを読むことができるようになるための視点・観点をストックしていくことといえます。

さらに、民法95条1項1号では「意思表示に対応する意思を欠く錯誤」、95条1項2号では「表意者が法律行為の基礎とした事情についてのその認識が真実に反する錯誤」とされています。どちらも「錯誤」となっていますが、両者は異なる場面で使われます。しかし、条文の内容は「抽象的でイメージしにくい」です。そこで、「法律を勉強する」とは、具体例の下で使えるようになることといえます。また、「勉強の仕方を考える」とは、具体例で使えるようになるための視点・観点をストックしていくことといえます。

以上のような形で「法律を勉強する」、「勉強の仕方を考える」ことを常に意識しながら、まずはインプット、次にアウトプットと勉強を進めていくことになり。そのような勉強がしやすくなるように、丁寧なフォローを展開できればと思っています。ぜひともよろしくお願いたします。



法律家の出発点に立っているかも知れないあなたに併走します

橋爪 進先生

法曹実力講座Ⅰ期担当

早稲田大学法学部卒業後、1988年(旧)司法試験合格。司法修習終了後の1991年、東京地裁判事補に任官し、左陪席として多数の民事合議事件の判決起案や和解協議に携わる。1993年退官。現在は神奈川県弁護士会に所属している。弁護士登録後は、破産管財人や個人再生委員など、裁判所からの依頼案件を多くこなし、20年以上にわたって、約80件の破産管財事件を担当した。また、弁護士会副委員長を11年間努め、弁護士懲戒案件にも精通している。2002年には、日本百貨通信販売詐欺事件の被害者代理人弁護士として、フジテレビの報道解説番組に出演した経験を持つ。その他、著名事件では、エステティックサロンのTBC個人情報漏洩事件において、TBC側の弁護団の一員を務めた。2008年より、エクステンションセンターの法律総合講座で学部3年次の法曹実力講座Ⅰ期を担当。現在本講座において教鞭をとる渥美雅大弁護士は、その第1期生である。

専修大学で法律を学び、卒業後は司法試験に合格して、弁護士や裁判官、検察官になりたいと思っている人はいませんか。もしいたら、人生におけるこの大学4年間を、ひたすら法律の勉強のためだけに費やしてみませんか。大事なことは、ほかにも沢山あるのは分かっています。友達付き合い、恋愛、サークル、アルバイト等々。しかし、それらは何もこの4年間でなくてもできますよね。18歳から22歳頃までの脳は、スポンジのように吸収力が良く、可塑性に富んでいます。大

人の保護下にあった高校生までとは違い、社会に適應する力も身につくつあります。法律を学ぶには、最適の状態なのです。ではまた受験時代に戻ること、折角大学に合格したのに?そんなことはありません。大学で学ぶ法律は、暗記中心で、詰め込み式の、主体性のない、いわゆる受験勉強とは違うのです。「解釈」、すなわち与えられた条件の下で、自分で考え、事案を解決する力を養うための勉強なのです。私は長年にわたって、本学3年次の法曹実力講座Ⅰ期を担

当してきました。皆さんの力は、概ね把握しています。したがって、皆さんがより早くゴールに辿り着くように併走してあげることができるでしょう。抽象的なことをゴチャゴチャ言っても仕方ありません。とにかく、まずは法律の基本書を1冊買って、読んでみて下さい。差し当たり、芦部信喜先生の憲法、内田貴先生の民法Ⅰあたりはどうですか。何だか面白そうだ、そう思ったとき、あなたは法律家になる出発点に立ったのかも知れません。

## What are legal experts? 法律のエキスパートを目指す

### 法曹とは

様々な分野での構造改革が進み、今の日本は、国民一人ひとりが自らの責任において自由に行動する社会へと変化しています。また、急速な国際化も進んでいます。このような社会の変化に伴い、様々な法的問題が生じているのが現状です。法曹とは、法律実務に従事し、その法的問題の解決

にあたる職業です。特に裁判官・検察官・弁護士を指して法曹三者といったりもします。専門的な法的知識と幅広い教養、そして職業倫理をもって法的問題を解決し、社会正義を実現する担い手です。

### ■ 裁判官

裁判官は、民事事件(一般市民間の様々な法的な争い)、刑事事件(犯罪を処罰)、行政事件(国、公共団体と一般市民間の争い)を、法廷で当事者の主張を聞き、判決を下す等して解決します。裁判官の身分は国家公務員ですが、他の公務員と異なり、憲法で身分が保障されています。



### ■ 検察官

検察官は、犯罪が起きたときに、公益の代表者として警察官を指揮して捜査を行い、刑事裁判では原告官として公訴を提起し、主張立証活動を行う刑事事件の専門家です。また、法務省で法律案を作成することもあります。検察官も国家公務員です。



### ■ 弁護士

弁護士は、市民の法的トラブルの相談に乗り、アドバイスを行い、本人に代わって相手方と交渉し、さらに裁判の場で代理人として活動します。刑事訴訟では被疑者・被告人の弁護人になります。法律事務所に所属して活動するだけでなく、企業等に所属して活躍する、いわゆる組織内弁護士(インハウスローヤー)も増え、活躍する領域は多岐にわたります。



### 法曹の登用試験

法曹三者になるためには、原則として、法曹登用試験である司法試験に合格する必要があります。2011年まで実施されていた旧司法試験は、合格率1%前後という難関試験でした。ゆえに、司法試験は難しいとイメージする方も多くいます。

しかし、現在の司法試験の合格率は約42%で約1,600名の合格者が誕生しています。旧司法試験と比べれば合格しやすい試験になりましたが、非常に難関な資格試験であることに変わりはありません。また、2023年より、法科大学院の課程に在学する者であって、一定の要件を満たしたもののについても、司法試験を受験できるようになりました。



### 各種試験紹介

法律事務に従事するのは、法曹三者だけではなく、ここでは、在学中にも取得可能な法律系国家資格等を紹介いたします。法律総合講座で学ぶ知識は、これらの試験合格にも役立つ内容です。法科大学院入試または司法試験予備試験を受験するには準備と時間が必要です。受験までにどの程度の法学の理解力があるのか進捗状況を確認するために、以下の試験に挑戦する受講生が多いです。

#### 行政書士試験

国民と官公署のパイプ役を果たす法律専門家になるための資格試験です。行政書士は、官公署に提出する書類を依頼者に代わって作成・提出したり、相談を受けたりしますが、現在では幅広い業務を扱うことができ、活躍の場が広がっています。

#### 宅地建物取引士資格試験

不動産取引業に就く人には欠かせない資格試験です。不動産業や金融業に就職する際に要求されることの多い資格です。

#### 法学検定試験

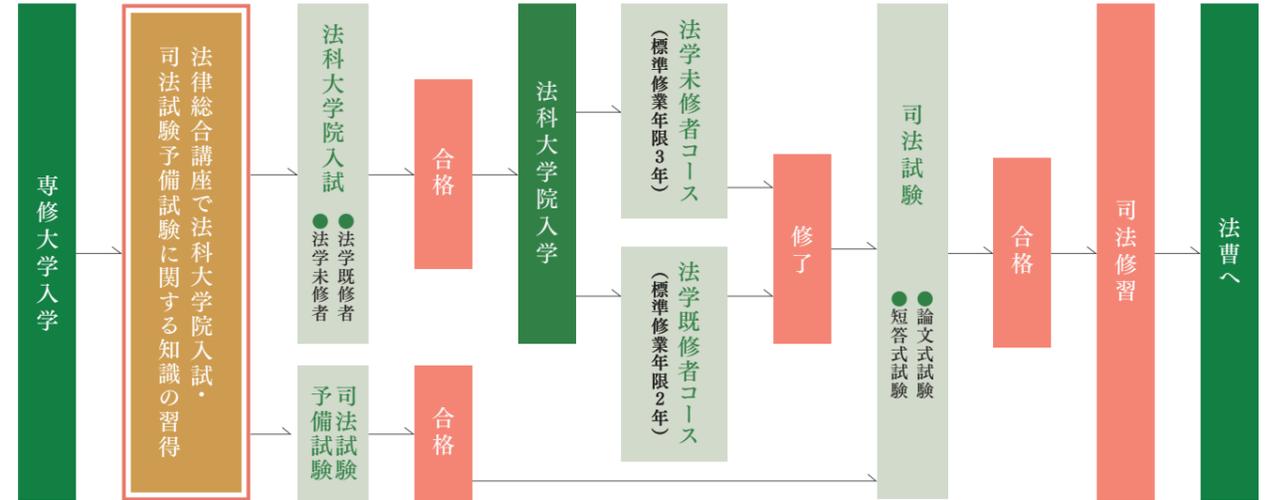
法律の学力レベルを客観的に評価する検定試験です。ベーシックコース(法学の初学者が知っておくべき基礎的なレベル)・スタンダードコース(法学を専門的に学習する者が修得すべきレベル)・アドバンスコース(法学を学ぶ者が目指すべき上級レベル)の3つのコースが用意されています。法律総合講座2年次でスタンダードコース合格を目標に、3年次では法科大学院入試で加点事由となるアドバンスコース合格を目指します。

## 法曹になるまでの道のり

司法試験を受験するには、大学4年次に法科大学院を受験(または早期卒業制度で大学3年次に法科大学院入試を受験)して法科大学院に入学し、3年ないし2年の標準修業年限を経て、法科大学院を修了すること、または司法試験予備試験に合格する必要があります。なお、一定の要件を満たした法

科大学院生は法科大学院在学中に司法試験を受験できます。法科大学院では、法律家養成の観点から、法律実務についても専門的な講義が行われます。司法試験では、幅広い能力が要求されます。本学の法律総合講座では、法科大学院入試、司法試験予備試験を突破できる法的思考能力を養成します。

法律総合講座では主に赤枠の部分の学習を行います。



#### 法科大学院入試について

法科大学院で実施される入学試験には、法学未修者コース入試と、法学既修者コース入試があります。法学未修者コース入試では一般に、小論文が出題されます。法学既修者コースでは、科目や出題形式は各法科大学院によって異なりますが、法律科目が出題されます。筆記試験だけでなく、面接試験や口述試験が課される場合もあります。

#### 法学未修者コース・法学既修者コースとは

法学未修者コースは、法律学の基礎的な学識を有しない者が入学するコースで、標準修業年限は3年間です。法学既修者コースは、法律学の基礎的な学識を有すると認められた者が入学するコースで、標準修業年限は2年間です。入学するコースは、大学の出身学部とは関係なく、どちらのコースを受験するかで決まります。

#### 司法試験とは

司法試験は、短答式と論文式による法曹三者(裁判官、検察官、弁護士)になろうとする者に必要な学識及びその応用能力を有するかどうかを判定する試験です。司法試験合格後、司法研修所及び全国各地の裁判所、検察庁、弁護士会等で約1年間の修習を行います。その後、司法研修所の司法修習生考試を経て晴れて法曹となります。

#### 司法試験予備試験とは

司法試験を受けようとする者が、法科大学院の課程を修了した者と同等の学識等を有するかどうかを判断する試験です。旧司法試験終了に伴い、2011年から実施されていますが、旧司法試験同様の難関試験です。受験資格は特に制限がなく、誰でも受験することができます。

### 専修大学法科大学院紹介

専修大学法科大学院は、「議論による問題解決能力」を有する法曹の養成を目的としています。法律家に最も必要とされる資質が、議論による問題解決能力であると考えているからです。本学法科大学院では、クラス担任制を取り入れ、学習計画の策定や実施状況の確認、日常的な学習相談などきめ細かい指導を行っています。法科大学院に進学する際には高

額な費用が必要となります。しかし、専修大学法科大学院は、将来ある優秀な学生を経済面から支援するために、各種奨学生制度を設けています。詳細は下記をご覧ください。また、本学法学部法律学科を早期卒業し、本学法科大学院へ入学する制度もあります。詳細は教務課(法学部)へお問い合わせください。

#### スカラーシップ入試奨学生

スカラーシップ入試の合格者全員に給付されるもので、未修者にあつては3年間、既修者にあつては2年間、入学金、授業料及び施設費相当額並びに月額8万円(年額96万円)が奨学金として支給される制度です。

#### 新入学生術奨励奨学生A

一般入試の合格者のうち、その成績が極めて優秀な者に給付されるもので、未修者にあつては3年間、既修者にあつては2年間、入学金、授業料及び施設費相当額が奨学金として支給される制度です。

#### 新入生特別学術奨励奨学生

専修大学の卒業生で、一般入試の合格者全員に給付されるもので、未修者にあつては3年間、既修者にあつては2年間、月額8万円(年額96万円)が奨学金として支給される制度です。

※他にも様々な奨学生制度があります。詳細は法科大学院事務課までお問い合わせください。



#### ● 司法試験合格者数

年度	2025年度	2024年度	2023年度
合格者数	7名	9名	10名

※法務省発表

## About law general course



法律総合講座について



### 法律のプロによる講義と個別指導で希望進路を実現する

法曹になるには、条文や基本原理を正確に理解し、それを基礎とした上で、各事案で妥当な結論を導く能力を養う必要があります。そのためにもっとも効果的なのは、司法試験に合格した法律のプロから直接指導を受けることです。一人で難解な法律書と格闘するだけでは誤った理解をしたり、バランス感覚を欠いた解釈に陥りがちです。法律総合講座では、すべての段階に

おいて現役弁護士をはじめとする法律のプロが最新の実務を踏まえながら丁寧に講義を展開することを実現しました。また、受講生の様々な悩みに応えるため、専門スタッフによる手厚いバックアップも行います。受講生と講師・スタッフが正面から向き合い、希望進路の実現に向けてサポートする講座です。

### 専修大学オリジナルシステムで、真の実力を身につける

法科大学院入試や司法試験予備試験といった「試験」を突破するには試験対策が必要です。大学受験の際に、高校の授業の他に大学受験予備校等で対策をした方も多いと思いますが、法科大学院入試・司法試験予備試験も同じことです。法科大学院進学・司法試験予備試験合格を目指す多くの方が、大学の講義以外に、受験指導専門学校で試験対策をしています。しかし、大学と受験指導専門学校に並行して通う、いわゆるWスクールには、いくつか問題があります。まず、受験指導専門学校の学費は一般

的に高額なので、経済的な負担が大きくなります。また、大学と受験指導専門学校と自宅の3ヶ所が生活の拠点となるため、移動時間の負担も大きくなります。その点、法律総合講座は、オンライン講義と、学内で対面講義を実施する、いわゆるビルトイン・スクール方式を併用しています。そのため受講料を抑えることができ、また生活の拠点も2ヶ所で済むため、移動時間の負担も少なくなり、効率的に試験対策に必要な真の実力を身につけることができるでしょう。

## 法律総合講座の4年間

目指したのは、充実した4年間をサポートすること、一人ひとりの持つ力を最大限に引き出す講座であること。1年1年着実に、じっくり力をつけるために考えられた充実のカリキュラムを用意しています。

1年目	2年目	3年目	4年目
<b>法律科目入門講座Ⅰ期</b> (5月～翌年3月)	<b>法律科目入門講座Ⅱ期</b> (5月～翌年3月)	<b>法曹実力講座Ⅰ期</b> (4月～翌年3月)	<b>法曹実力講座Ⅱ期</b> (4月～7月)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義(オンライン) 憲法 民法 刑法</li> <li>●対面フォローシステム</li> <li>●個別面談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義(オンライン) 商法 民事訴訟法 刑事訴訟法 行政法</li> <li>●対面フォローシステム</li> <li>●個別面談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●論文作成法習得(対面) 憲法・民法・刑法 商法・民事訴訟法 刑事訴訟法・行政法</li> <li>●個別面談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●答案練習・講義(対面) 憲法・民法・刑法</li> <li>●講義(対面) 商法・民事訴訟法 刑事訴訟法</li> <li>●個別面談</li> </ul>
オンライン講義で、憲法・民法・刑法の基礎固めをじっくり時間をかけてやっていきます。対面フォローシステム(講義)では、学生がつまづきやすい論点を中心に説明します。	オンライン講義で、商法・民事訴訟法・刑事訴訟法・行政法を学びます。この講座でしっかり学ぶことで7科目の基本的なインプットが完了します。	対面のゼミ形式で論文作成法を学びます。各科目の特性に合わせた論文作成法を身につけ、論文作成と講義を繰り返していきます。	実際に時間を計って答案を作成し、その後に講師の講義を行います。法科大学院入試合格または司法試験予備試験合格という目標に向かってのラストスパートになります。



### 法曹実力講座Ⅱ期受講生の法科大学院進学実績 (2022～2024年度の法科大学院進学者)

- 専修大学法科大学院  
(3年次早期卒業による進学者も含む)
- 上智大学法科大学院
- 中央大学法科大学院
- 明治大学法科大学院
- 学習院大学法科大学院
- 千葉大学法科大学院

上記法科大学院に進学し、司法試験に合格した元受講生もいます。

### 本学法学部の早期卒業制度による法科大学院進学実績 (2021～2024年度の法科大学院進学者)

- 2021年度 / 1名
- 2022年度 / 3名
- 2023年度 / 2名
- 2024年度 / 7名

本学法科大学院への進学のほかに他大学法科大学院へ進学している者もいます。



# 法律科目入門講座Ⅰ期

## Information(予定)

受講料 88,000円  
開講場所 神田校舎

生田キャンパスに通学している学生もオンライン講義のため受講可能です。対面フォロー講義を教室で受講する場合は、神田キャンパスまで通学することになりますが、通学定期券を購入するための通学証明書は発行できません。対面フォロー講義も録画するため、全てオンラインで学習することもできます。

※講座の詳細はガイダンスまたはホームページにてお知らせします。 ※一旦納入した受講料は、返金できません。  
※本講義は対面ではなく、全編オンライン講義です。

## 法律の基本となる憲法・民法・刑法をマスターする

法律総合講座1年目の「法律科目入門講座Ⅰ期」では、法律を学習するうえで最も重要な憲法・民法・刑法の基礎をオンライン講義で学び、その後につなげる土台作りをします。講師・カリキュラム・教材・演習・バックアップ体制等、あらゆる面で受験指導専門学校に匹敵する充実した講座内容です。おおよそ1年間で受験指導専門学校アガルートアカデミーの総合講義300(憲法・民法・刑法)を学習します。総合講義は、テキストを3周する設計となっており、何度も繰り返しながら理解を深めていき、その過程で各論点を覚えることができます。初学者にとって理解することが難しい論点も繰り返し学習することで理解することができます。

## Schedule スケジュール(予定)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
募集ガイダンス	オンライン講義を受講するためのガイダンス	○オンライン講義で法律の基礎知識(約5時間)・憲法(約55時間)・民法(約60時間)・刑法(約46時間)の講義を受講 ○対面フォローシステム(18回) ○復習テスト(12回)									
			個別面談			宅建士試験	個別面談	行政書士試験	法学検定試験		

## 法律を知り、理解する!

**POINT 01** **いつでも、どこでも、何度でものオンライン講義**  
本講義はオンラインで実施するので、インターネット環境があれば、いつでも、どこでも、何度でも、講義を受講することができます。講義で学んだあとに、その知識を復習するための副教材として最適な、1問1答問題集を配付します。赤シート付なので、重要事項の暗記学習・反復学習に最適です。

**POINT 02** **専大生に合わせた独自カリキュラム**  
受験指導専門学校アガルートアカデミーとの提携で専修大学オリジナルのカリキュラムで講義を行います。初学者でも無理なく着実にレベルアップが図れる内容となっています。

**POINT 03** **進捗状況に即した復習テストを実施**  
オンライン講義の進捗状況に即して対面フォロー講義のない日に復習テストを行います。復習テストを受けることで、オンライン講義で理解した内容の確認をすることができます。

**POINT 04** **対面フォローシステム**  
本学OBで、受験指導に精通した弁護士が、2週間に1回程度の対面フォロー講義を実施します。モチベーションの維持、そして学習の進捗状況チェックに役立ちます。勉強の方向性やスケジュールのお悩みを解決する学習カウンセリングチューターの役割となります。また、年2回程度対面フォロー講師による個別面談を実施します。



## 先取りして1年次から法律科目入門講座Ⅱ期の科目を受講することができます!

在学中に早期卒業による法科大学院進学または司法試験予備試験合格を目指す方は、1年次から並行して法律科目入門講座Ⅱ期を受講することもできます。1年次に2年次向けの法律科目入門講座Ⅱ期を受講することで、法曹必須七法への理解を深め、早期に論文試験対策をスタートさせることも可能となります。法律科目入門講座Ⅱ期の受講の手続きは、1年次の4月または9月に行います。1年次の9月に手続を行った場合は、10月から開講し、2年次の7月までの受講スケジュールとなります。詳細は募集ガイダンスでお知らせします。

# 法律科目入門講座Ⅱ期

## Information(予定)

受講料 88,000円  
開講場所 神田校舎

生田キャンパスに通学している学生もオンライン講義のため受講可能です。対面フォロー講義を教室で受講する場合は、神田キャンパスまで通学することになりますが、通学定期券を購入するための通学証明書は発行できません。対面フォロー講義も録画するため、全てオンラインで学習することもできます。

※講座の詳細はガイダンスまたはホームページにてお知らせします。 ※一旦納入した受講料は、返金できません。  
※本講義は対面ではなく、全編オンライン講義です。

## 法曹必須七法の基礎理論を完成させ、いよいよ法律専門家に向けた実践学習を開始

法律総合講座2年目の「法律科目入門講座Ⅱ期」では、商法・民事訴訟法・刑事訴訟法・行政法のインプットを行い、1年目の学習と合わせて法曹必須七法の基礎理論を完成させます。講師・教材・カリキュラム・演習・バックアップ体制において、最良のシステムを提供し、基本的な法的知識を習得することができます。おおよそ1年間で受験指導専門学校アガルートアカデミーの総合講義300(商法・民事訴訟法・刑事訴訟法・行政法)を学習します。総合講義は、テキストを3周する設計となっており、何度も繰り返しながら理解を深めていき、その過程で各論点を覚えることができます。2年間のインプット講義で法的思考力を身につけて、本格的な論文式試験にチャレンジするための橋渡しを目的としています。

## Schedule スケジュール(予定)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
募集ガイダンス	オンライン講義を受講するためのガイダンス	○オンライン講義で商法(約31時間)・民事訴訟法(約34時間)・刑事訴訟法(約35時間)・行政法(約33時間)の講義を受講 ○対面フォローシステム(19回) ○復習テスト(12回)									
			個別面談			宅建士試験	個別面談	行政書士試験	法学検定試験		

## じっくり、着実に力をつける!

**POINT 01** **いつでも、どこでも、何度でものオンライン講義**  
本講義はオンラインで実施するので、インターネット環境があれば、いつでも、どこでも、何度でも、講義を受講することができます。講義で学んだあとに、その知識を復習するための副教材として最適な、1問1答問題集を配付します。赤シート付なので、重要事項の暗記学習・反復学習に最適です。

**POINT 02** **専大生に合わせた独自カリキュラム**  
受験指導専門学校アガルートアカデミーとの提携で専修大学オリジナルのカリキュラムで講義を行います。初学者でも無理なく着実にレベルアップが図れる内容となっています。また、配布テキスト「実況論文講義」なども使用して、対面フォロー講義では論文式問題にもチャレンジします。

**POINT 03** **進捗状況に即した復習テストを実施**  
オンライン講義の進捗状況に即して対面フォロー講義のない日に復習テストを行います。復習テストを通じて、論文作成方法の「型」を学んでいきます。

**POINT 04** **対面フォローシステム**  
1期同様に2週間に1回程度の対面フォロー講義を実施します。もっとも2年目となれば、学習内容も高度になります。オンライン講義を受講して生じた疑問は対面フォローシステムの講義で直接質問してみましょう。また、年2回程度対面フォロー講師による個別面談を実施します。



## 3・4年目

About the 3rd-4th year curriculum

- I 期 法律のエキスパートを目指すための実力養成
- II 期 法科大学院入試、司法試験予備試験へのラストスパート

法律科目入門講座 I 期・II 期を受講していなくても、法曹実力講座の受講は可能です

# 法曹実力講座 I 期・II 期

### Information(予定)

- 受講料**  
I 期(3年目) 88,000円 / II 期(4年目) 45,000円
- 開講場所**  
神田校舎

※講座の詳細はガイドンスまたはホームページにてお知らせします。 ※一旦納入した受講料は、返金できません。 ※法曹実力講座 I 期・II 期は全て対面講義で実施します。 ※生田キャンパスに通学している学生も受講可能ですが、神田キャンパスへ通学するための通学証明書は発行できません。

### 将来のスペシャリスト養成のための総仕上げ

法律総合講座3・4年目の「法曹実力講座」は、1・2年目の「法律科目入門講座」で蓄えた学習成果を前提に、法律専門家にふさわしい能力を開花させるための総仕上げとなる講座です。対面ゼミ形式の少人数指導体制、試験直前までのフォロー体制など、各自の目標実現にふさわしいシステムを採用しています。3年目の「法曹実力講座 I 期」では、法曹を目指して法科大学院進学・司法試験予備試験合格を狙う受講生を対象に、講師が問題に即して学生一人ひとりと質疑応答を繰り返すソクラテス・メソッドシステムによる指導を行います。4年目の「法曹実力講座 II 期」では、法科大学院入試または司法試験予備試験まで実践的な対面講義と答案練習を実施します。

### Schedule スケジュール(予定)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
法曹実力講座 I 期	募集ガイダンス	講義・演習(憲法8回・民法13回・刑法13回・商法8回・刑事訴訟法8回・民事訴訟法8回・行政法6回)										
				予備試験 短答式試験		予備試験 論文式試験		個別面談	行政書士試験	法学検定試験	予備試験 口述試験	
法曹実力講座 II 期	募集ガイダンス	憲法・民法・刑法(答案練習・解説各4回) 商法・民事訴訟法・刑事訴訟法(講義各1回)										
				法科大学院入試開始		予備試験 短答式試験		予備試験 論文式試験			予備試験 口述試験	

### 真の実力を身につける!

#### POINT 01 3年目カリキュラム / 法曹実力講座 I 期 4月～翌年3月

3年目の「法曹実力講座 I 期」では、1・2年目で培った法的基礎知識と法的思考能力をもとに、法曹必須七法について、具体的事例の解析能力習得を目指します。講義・論文問題検討・講師オリジナル問題による確認と対面によるソクラテス・メソッドを併用し、効率的に学習を進めます。論文作成指導に長けた現役弁護士の講師のもと、同じ目的を持った仲間と切磋琢磨することで、本物の実力が身につきます。「法曹実力講座 I 期」で身につけた実力は、法科大学院入試合格・司法試験予備試験突破のみならず、司法試験合格を果たすための大きな原動力になるでしょう。

#### POINT 02 4年目カリキュラム / 法曹実力講座 II 期 4月～7月

4年目の「法曹実力講座 II 期」は、法科大学院入試または司法試験予備試験を目指す受講生に対して、3年目までに身につけた法的基礎知識、思考能力、そして解析能力の最終確認を行いつつ、試験直前まで答案作成・解説講義をくり返し行い、論文答案の書き方を実践的に学びます。法科大学院入試合格・司法試験予備試験突破に向けて、万全の体制を整えます。

#### POINT 03 少人数指導 / ソクラテス・メソッドシステム

「法曹実力講座 I 期」「法曹実力講座 II 期」は、少人数指導と、ソクラテス・メソッドシステムを採用しています。この方式では講師が個々の学生の実力や思考経路を捕捉したうえできめ細かな指導をすることができるので、短期間での実力向上が見込めます。

#### POINT 04 法科大学院未修者試験で課される

小論文添削を行います。  
法科大学院に出願する際に提出する志望理由書や未修者試験で課される小論文試験の添削を行います。

## Messages from Enrolled Students & Students Who Passed

受講生・合格者からのメッセージ

### 法律科目入門講座 I 期 受講生

法学部  
法律学科1年  
(埼玉・所沢西高校出身)  
村田 莉菜さん



#### 目標へ向かって

法律科目入門講座I期は、法律を学び始める方にとって最適な講座だと感じます。本講座では、講師が基礎から丁寧に教えてくれるので、法律を学ぶ上で必要な基礎知識や考え方を身につけながら勉強を進めることができます。オンライン講義では、再生速度を変えたり、移動時間や空きコマを活用できるため、効率よく自分のペースで進めることができます。繰り返し視聴ができるので、学部の授業の予習や曖昧だった箇所の見直しができるのも魅力的だと感じます。対面フォロー講義では、

講師が講義の進め方や重要論点を詳しく解説してくれるので、勉強のモチベーションにつながります。また個別面談では、勉強方法や進路について親身に相談に応じてくれます。この講座を通して憲法・民法・刑法の基礎を身につけ、目標である司法試験合格を目指して今後も努力を続けていきたいと思えます。

### 法律科目入門講座 II 期 受講生

法学部  
法律学科2年  
(東京・新宿山吹高校出身)  
石原 悠理香さん



#### 専修大学から法曹界の頂点へ!

私が思うこの講座の魅力は3つあります。1つ目は、月1回開催される、講師に好きなだけ質問できる「オフィスアワー制度」です。この制度により、勉強の質問だけでなく様々な相談ができ、学習内容・質ともに改善できました。2つ目は良心的な料金です。多くの司法試験受験指導専門学校が数十万円かかる中、この講座では10万円以下で良質な指導を受けられます。さらに短答式試験の過去問や論文テキストも配布されるので、オフィスアワーと併用すると効果的です。3つ目は、先取り学習がで

きる柔軟なカリキュラムです。通常2年かかるところ、希望すれば、1年で2年分受講できます。私はこの制度を利用したことで、司法試験の知識量の多さを早期に実感し、危機感を持って勉強できています。その結果、2年次前期はオールSの成績を修得できました! 私は予備試験に合格することを目標に日々この講座で勉強に励んでいます! とても楽しい講座なので、皆さんも挑戦してみてください!

### 法曹実力講座 I 期 受講生

法学部  
法律学科3年  
(埼玉・浦和第一女子高校出身)  
中山 日菜子さん



#### アウトプットで実力をつける

法律の勉強はしてきたけれど、いざ論述の問題文を目の前にすると何から書き始めて良いのかわからない。私を含め誰しもがぶつかる壁だと思います。そんな方におすすめの講座です。この「法曹実力講座I期」では、全7科目の論文対策を過去問等を用いて行います。1、2年次で身につけた法律基礎知識の確認をしたり、自力で答案を書いたりする機会がたくさん設けられています。自分で書いた答案は講師が丁寧に添削してくれるので、自分の弱点や論述の癖に気づくことができます。講

座では、講師が重要論点や重要判例、通説・学説を解説してから参考答案を提示してくれます。私は講座の内容をその場で理解するために、不明点を明確にするなどの予習してから臨むように心がけています。週2日の講義で毎回新たな視点を取り入れることができ、論述の幅が広がりました。今後も弁護士を目指して、まずは法科大学院合格を目標に、この講座を活用しながら努力を続けていきます。

### 法曹実力講座 II 期 受講生

法学部  
法律学科4年  
(福島・郡山東高校出身)  
大越 大嗣さん



#### 法科大学院入試への道

法曹実力講座 II 期は、これまでに身につけた知識をもとに、答案作成能力を一層向上させることができる講座です。時間を計って答案をし、次回の講義で解説されるというスタイルがとられています(扱われる問題は旧司法試験の過去問です)。当然、問題は難しく、現状の知識では太刀打ちできない場合もあります。しかし、そのような問題に実際に触れ、どうしたら上手く書けるのか真剣に悩んだ経験が、良い試験対策になったように思います。指導経験豊富な講師に答案を添削して頂

るので、自身のレベルを客観的な視点から把握することができます。これにより、私は答案作成に自信が持てるようになりました。また、講師は、法律の難しい概念について、実務の話と併せて解説されるので、理解を深めることができます。さらに、本講座では、志望理由書や小論文の添削も行っていますので、法科大学院入試を控えている人にとっては、受講しない理由はないと思えます。